

東久留米市都市計画マスタープラン 中間見直し市民検討委員会(第8回)
議事録(要点記録)

1 開催日時

日時:平成23年1月25日(火) 午後2:00～5:00

場所:702会議室(東久留米市役所7階)

2 出席状況

■出席委員:12名(3名欠席)

■市:都市建設部長、都市計画課(事務局)3名

■コンサルタント:1名

3. 議事録(要点記録)

■テーマ⑨地域資源を生かした人をひきつけられるまちづくり

- ・現行都市計画マスタープランには地域資源に関する記述はないが、懇談会で意見が出たことを受けてテーマとして採り上げることとなり、意見をもとに事務局で地域資源を整理した。目的として提示されていることは2つあり、1つは地域振興に関わるもので観光まちづくりの視点であり、長期的に人がくるようになり、また産業が発展するようになればよいというもの。もう1つは、今住んでいる人や子どもに関わるもので、地域に愛着や誇りをもって欲しいということである。(委員長)
- ・活用したいものについて、何かあれば言ってほしい。また、どうしたらそれらを発見できるか？発見する方法にはどのようなものがあるかを考えてほしい。そして、具体的にどういう施策を仕組んでいくか。例えば、移動手段、情報提供、楽しむ要素をうまくつなぐ、市民ややる気のある商業者の力の活用、子どもの教育などについて検討して欲しい。(委員長)
- ・観光まちづくりを育てていく可能性について、東久留米市は今は魅力になっているものが少なく、総合的な仕組みがないと実現の可能性は低いのではないか。この点で、行政での観光の位置づけはどうなっているのか。(委員)
- ・東久留米市地域産業推進協議会で、市としても農産物などを使って市の知名度をあげようといった取り組みを行っている。柳久保小麦、梅ワイン、河童のクウなどを活用して、東久留米市というまちを売り込もうとしている。(事務局)
- ・東久留米市地域産業推進協議会の構成員は、どうなっているのか。(委員長)
- ・農業関係者(農協、農業委員会)、商業関係者(商工会)、東久留米市(地域振興課)などから構成されている。(事務局)
- ・北区の戦略ビジョンみたいなものがあれば良い。気運づくりが重要だ。ほかの都市では企画部署が中心となって動いている例が多い。ビジョンから施策への流れがあることが必要である。(委員)
- ・農地を風景として見るだけでなく、そこでとれた農作物を売るということが良い。かつて庭先販売している農家を地図におとしたことがあるが、これなどはアピールになる。また、一カ所で様々な商品を購入できるようなセンター的な施設が必要だ。(委員)
- ・1つ目の論点である「地域資源でめざす2つの視点」については、妥当であるという認識でよろしいか。その上で活用したい・活用すべき地域資源にもれがないかみてほしい。懇談会では、歴史的資源は出ていたが、景観的資源などは何かないか。(委員長)
- ・景観資源としては富士見テラスがある。富士見の景観を護るため、(東)3・4・19沿道には地区計画をかけて、建物の高さを抑えている。(事務局)
- ・街並みやビューポイントを、散歩コースの中で整理してはどうか。また、例えばおいしい飲食店の情報などはないか。(委員長)
- ・本日委員から頂いたタウン情報誌の「多摩ら・び」で東久留米市が特集されており、その中に様々な情報がある。(事務局)
- ・掲載されるような店舗が減ってしまった。(委員)
- ・東久留米市にはかつて、漫画家の手塚治虫氏が6～7年ほど住んでいた。ほかの都市では手塚治虫氏を活用した例があるが、東久留米市では何も行っていない。(委員)

- ・高橋留美子氏をはじめ漫画家が多い。(委員長)
- ・この春に、村野家住宅が国の有形文化財に登録されることになった。周辺に20軒ほど同じような雰囲気住宅が残っているが、相続などで不安があり、今後どうするかがまとまっていない。ケヤキなどの名木もあり、景観条例で規制できるように運動していきたいと思っている。また、天神社を中心とした武蔵野の原風景を位置づけたい。花の名所が多く、また紅葉などもあるため、四季に対応したマップをつくると東久留米市の観光資源になる。(委員)
- ・富士見テラスから富士山をみると、先の図書館辺りから電柱があり、眺望を邪魔している。(委員)
- ・マンションのセットバックや看板の高さ制限等も考えられる。(委員長)
- ・沿道の電柱については、今後6～7年かけて無電柱化することになっている。(事務局)
- ・地域への愛着や子ども・若い人などの視点で考えると、「楽しい」というキーワードが重要だ。例えば、六仙公園に若い人向きの機能があるとよい。手塚治虫氏の作品等を活用するのもいい。(委員)
- ・六仙公園については、ここには八小があったので、水と緑などの環境学習をする拠点としたかった。市内には教育者が多く住んでいるため、学習できるような拠点になったらいい。(委員)
- ・東久留米郷土資料室自体はよいが、そこに行かないと分からない。学校の周年行事等で地域の歴史を教育することが重要だ。それによって親も学ぶことになる。教育委員会との連携が必要だ。(委員)
- ・東久留米郷土資料室には縄文時代の遺跡が展示されているが、こどもたちが自分たちでそうした遺跡の模型をつくるとか、公園を整備するなどの仕組みがあるとよい。市内には知られていない飲食店が多くあるので、掘り起こしが重要だ。(委員)
- ・まち歩き観光資源は増えていると思うが、観光について何をもちこてここに記載されているのか、その目的はお金か交流か。(委員)
- ・まちの活性化や交流を目的としている。東久留米市がいいまちだと思う人が増えることが望ましい。単に観光だけでない。(事務局)
- ・お寺の仏像をみて楽しむよりも、ヨーカドーを中心とした周辺に店舗を多く立地させて、たくさんの方が東久留米市にお金を落としてもらうようにする方がよいのではないか。(委員)
- ・地域資源活用による振興については、まち歩きで外から来てお金を落とすパターンと、地元に住んでいる人たちが自分たちで楽しむパターンがあると思われる。長期的には、子どもが地域にどれくらい愛着をもつかということが重要となる。(委員長)
- ・外から観光で来る場合に問題となるのは、車を駐めるところがないということだ。(委員)
- ・それは具体的な話となる。(委員長)
- ・点と線という考え方が重要だ。川沿いには色々な資源があるが、つながっていない。資源どうしをうまくつなげることが重要だ。例えば、自転車で点と点をつないでいくなどが考えられる。(委員)
- ・今の意見は、地域資源の活かし方で、論点の3番目にあたる。誰にとって、どういう目的で地域資源を活用するのかという視点で議論していただきたい。(委員長)
- ・論点1は良いと思う。魅力でもって外の人や内の人をひきつけるということだ。では、何故ひきつけなければならないのかということであるが、資料をみると、人口減少対策や賑わい対策のように思える。魅力として足りる点、足りない点の整理が必要ではないか。ただし、魅力が増してくると土地の単価

が上がるかも知れないという懸念がある。安価な地価で居住している人にとってはどうなのか？少し気になる。何が足りないのか。駅から富士山が見えるということはすごい魅力とと思っている。また、柳窪の村野家住宅は周りに雰囲気があるから良いのである。このため全体を良くしていくことが重要だ。(副委員長)

- 今住んでいる人が魅力と感じていることを、外の人に伝え、子供たちに教育していくことが重要だ。使い方と資源は分けて考えていいかも知れない。観光については、住みたくなるほどではないが来てみたい、というのがいいかもしれない。これをどう考えるか。(委員長)
- どこを目標とするのか。(委員)
- 日帰りしてくる人をターゲットにするのもいい。現在、相当多くの中老年がまち歩きしている。東京大学周辺の谷中や根津、本郷なども多い。ただ居住者にとっては迷惑となる場合もある。東久留米市にとって、湧水は観光資源として強みになると思われる。こうした点を都市計画マスタープランで扱うかどうか。(委員長)
- 市長の歩いて暮らせるまちとは、観光まち歩きに近いのではないか。市民の満足度を上げる居心地のよいまちにする。空間的につなぐとか。人とモノ、モノとモノ、人と人をつなぐ。(委員)
- 今年の七福神めぐりは3,300人集まった。去年は3,100人であった。(事務局)
- 西武鉄道は沿線都市の活性化を模索している。乗降客数を維持し、また増やすのが目的だ。(委員長)
- 西武鉄道にはイベント部がある。例えば村野家住宅では、土日に家を開放しようかと考えている。天神社でお茶を点でて、お菓子などをサービスとすると良い。大事なことは、柳窪全体をきちんとすることだ。建て売りの進出でまちが変わってきている。市街化調整区域の中で保護していきたい。ウォーキングできてもらうためなら、マスタープランに位置づけるような話ではないだろう。美術館があっても良いし、税収があがるものもいい。相続を機に、建てやすい開発を行い、条例最低限の公園をつくっている。東久留米駅を通る西武池袋線は地下鉄に乗り入れしており、都心に便利ないいまちだ。決して商業のまちではない。吉祥寺のようなまちではない。(委員)
- 七福神めぐりのスタート地点は宝泉寺だが、最初にここに大勢の人が集まることから、安全性の確保が重要だ。お金を落としていただくことを考えれば、駐車場の整備などのまちづくりでもきちんとした対応が必要だ。(委員)
- ここにリストアップされている資源を中心に、論点の3番目に移りたい。地域に住んでいる人に楽しんでもらい、また住んでもらえるようなまちにするにはどうするか。資源を活用するための環境整備が重要で、それは歩行環境や公共交通、駐車場などとなる。(委員長)
- 黒目川は、川と河川敷の間に塀がある。昔はなかったが、事故対策のために設置された。子供たちが自然の中で、自己責任において活動するという精神を育てていくことが必要であり、塀はない方がいい。(委員)
- 村野家住宅の開放では、自然の生かし方が重要である。利用するにあたり周辺環境をどうするか。アクセス道路、バス停、トイレ、案内などが課題となる。(委員長)
- 施設同士をどうつなぐか。南西方向はルートが多いが、これをつなぐ方向のルートがない。川の周辺は歩いて気持ちがいいし、滝山団地周辺は緑豊かな歩道が多い。ところで、都の「雑木林のみち」はどういう雰囲気か。(委員長)

- ・自然を利用して商売ができるような雰囲気はない。雑木林はさみしい。(委員)
- ・保全緑地はそのままの形となっている。気持ちよく歩けるように整備するのがよいかもしれない。(委員)
- ・保全緑地はこのままにしておいて、その先の街なかで飲食できるようなところがあればよい。(委員長)
- ・中心市街地か、柳窪なら茶屋か。(委員)
- ・柳窪なら茶屋がいい。(委員長)
- ・国分寺市の湧水のところに、しゃれたカフェがある。柳窪では難しいかもしれない。(委員)
- ・周辺居住者の奥さんが農産物を生かしてやるなどすれば、可能性は十分にある。(委員長)
- ・自然の中を歩くのはいいが、賑わいも欲しい。双方がマッチしたものがほしい。(副委員長)
- ・あまりコストをかけないで、お金目的でないような活動であれば成り立つ。(委員長)
- ・移動販売の仕組みが良いのではないか。(委員)
- ・外からくる人が楽しめるのか、中にいる人が楽しめるのか。河川敷の引っ込んだところに移動販売車をおけばいい。アートの店もいい。(委員)
- ・地域資源は、丁寧に評価しなければならない。(委員長)
- ・掘り起こしをして、評価をきちんと行うことが重要だ。(委員)
- ・都市計画的な対応はどうするか。(委員長)
- ・先ほど委員が言われたように、点と点をつなぐことが重要ではないか。(委員)
- ・「多摩ら・び」では3コースを設定している。(委員長)
- ・できればコースの最後は東久留米駅であって欲しい。(副委員長)
- ・柳窪だと清瀬駅になる。(委員)
- ・滝山団地まで歩くと、東久留米駅が便利になる。(委員長)
- ・村野家住宅まで歩くと帰りがない。野火止用水は良いが、あそこに行くと帰りが課題。(委員)
- ・東久留米駅から、ひばりが丘団地や自由学園は行きにくい。(委員長)
- ・竹林公園がいい。(委員)
- ・竹林公園はひばりヶ丘駅からのアクセスがいい。(委員)
- ・市外駅からのアクセスあっても、東久留米市内に来てもらえればいい。(委員長)
- ・東久留米団地と黒目川と平林寺をつなぐと良い。(委員)
- ・平林寺は新座市である。(委員)
- ・平林寺に対抗できる資源として、柳窪があると思っている。(副委員長)
- ・市外なら小平霊園もある。柳窪の人たちは、小平駅が最寄り駅となる。(委員)
- ・七福神めぐりでは、お寺でもいろいろ売り始めている。

- ・野菜直売所など、農協もイベントをやっている。(委員)
- ・市民の会でも七福神めぐりに出店した。(委員)
- ・遠いところからも来ている。(委員)
- ・来た人の感想はどうか。翌月などに、また来るような感じなのか。(副委員長)
- ・お寺の境内の開放は、七福神めぐりの日以外はいま一つの印象だ。(委員)
- ・公共交通や歩けるルート、トイレ、案内などの整備が必要だ。体制・しくみでは、事業をやりたいと思っている人がいるかどうか。商業者と農業者との連携、行政が総合的に対応する仕組みなどが重要だ。また、子どもの教育との連携(教育委員会との連携など)や市内のコンセンサスも重要だ。(委員長)
- ・子育て応援マップというのがある。(委員)
- ・そうしたマップは重要だ。そういった情報をどう収集し、まとめているか。先細りになる心配もある。(委員長)
- ・それは人的資源に係わることとなる。(委員)
- ・人的資源はないか。(委員長)
- ・文庫連(東久留米地域文庫親子読書連絡会)というのがあり、日常的な活動だけでなく、夏休み時期に毎年テーマを設けて、ワークショップや展示会、講演会等様々な企画の「文庫まつり」を企画運営している。また市内の様々な人的資源については、市民大学中期コースでとりあげて講師として登壇して頂いている。冊子にまとめてあるので、そちらも参照してほしい。(中央図書館の地域資料コーナー、広報課等にある。)(委員)
- ・クリスチャン・アカデミーがある。親が地域のまちづくりの中に入れてもらう仕組みがあるといい。自由学園では入っている。(委員)
- ・クリスチャン・アカデミーは、市の教育委員会の所管外の学校である。(委員)
- ・最近では帰国子女なども在学している。小中高がある。(委員)
- ・教育系の資産として、クリスチャン・アカデミーを位置づけられないのか。(委員長)
- ・自由学園は重要だ。キャンパスが開放される日がある。(委員)
- ・自由学園は建造物が資源となる。(委員長)
- ・五小は社会科見学的に、自由学園に入っている。(委員)
- ・東京学芸大学の特別支援学校や幼稚園、グレゴリオの家などもある。(委員)
- ・東久留米総合高等学校は、サッカーで有名である。(委員)
- ・フルピッチを持っているのは、都立高校では東久留米総合高等学校が唯一である。(委員長)

■テーマ③道路が整い、バスが使いやすく、歩行者・自転車が安心して通行できるまちづくりの中の、④～⑥について

- ・現行都市計画マスタープランにもいろいろと書いてあるが、進捗していないので重点的に取り組むこ

とが重要となる。バリアフリーや空間の分離など、狙いを定めてやるべきであると思う。交通バリアフリー法による整備はあるのか。(委員長)

- ない。(事務局)
- 駅や道路のバリアフリーを進める交通バリアフリー法と、建物のバリアフリーを進めるハートビル法が統合し、バリアフリー新法ができた。計画をつくると事業者が整備をしなければならないということになる。(委員長)
- 東久留米市の場合は、東京都の福祉のまちづくり条例で進めている。(事務局)
- 色々な施設にアクセスできる空間ができるのは大切なことである。団地のバリアフリーや拠点のバリアフリー化をしっかりと行うことが重要だ。(委員長)
- 生活関連施設や商業施設、歩行環境とバスルートなどが掲載された図を、事務局につくって頂いて検討したい。(副委員長)
- 六仙公園関係では、アクセス道路が重要だ。(委員)
- 神明通りがその道路になるが、現況は狭い。(委員)
- 平成23年度から用地買収を行い、拡幅する予定となっている。(事務局)
- 歩行者や自転車のアクセスが重要だ。(委員長)
- 広域的な避難の拠点ともなる小平霊園は、墓石が倒れたら大変だ。(委員)
- 地震後の避難なので、墓石は倒れたあとになるのではないか。(委員長)
- 避難後に再び地震が起きる可能性があるため危険である。(委員)
- 小平霊園のおかげで、周辺、土日は大渋滞となる。
- 六仙公園は都立なので、小平霊園に準じる規模となる。(委員)
- 外からたくさん人がくるような公園にはしない方が良いのではないか。(委員長)
- 六仙公園は、水道タンクが北東にあって落合川につながる。また、観光として重要だ。(委員)
- 六仙公園は、歩行者、自転車、自動車のアクセスをどうするかであるが、車利用を減らすため、公共交通を充実することができるかどうか危惧される。(委員長)
- 歩道や自転車が重要だ。(副委員長)
- 市内の西から東に向けて1本、自転車レーンのある道路を位置づけられないか。(委員)
- 黒目川の歩行者・自転車空間をうまく活用できないか。しかし今のままでは歩行者と自転車が混在していて危険である。(委員)
- 川沿いの歩道について、歩行者は北側、自転車は南側と決めているのであれば、自転車はできるだけ南側を走ってもらうよう、サインをもっと出すべきだ。(委員)
- マナーをもって使うようにするため、案内板を設置するのが良い。(委員長)
- 南沢通りが広くなれないか。そうすれば六仙公園にアクセスしやすくなる。(委員)
- 前回議論した、南沢～(東)3・4・18～(東)3・4・13のルートと、南沢通りのどちらかの選択となる。仮に南沢～(東)3・4・18～(東)3・4・13のルートを整備するとしても、環境帯のあるパークウェイに

するという考え方がある。歩行者及び自転車のためのルートとすることを基本とした、公園的な道路がいい。市内に自転車道を確保できるところはないか。(委員長)

- ない。(事務局)
- これだけ資源が広がっているのに、自転車で回れると楽しい。(委員長)
- 環境を考えると、自転車がいい。(委員)
- 川沿いがあるから、もう少しネットワークできると良い。(委員)
- 黒目川の塀はどうして設置されたのか。(委員)
- 転落防止だと思われる。(事務局)
- 河川沿いの芝生部分を歩行者空間にしたらどうか。(委員)
- 補助金を活用して、2つの川をつないで循環できるようにしたら良い。(委員)
- スポーツセンターのところの勾配をうまく処理したら、まわれるのではないか。(委員)
- 2つの川を結んで公共交通のアクセスを高める、地域資源を活用するなどを検討するのがよい。(委員長)
- 南沢通りの都道234号線より北側を拡幅して、黒目川までアプローチさせることはできないか。(委員)
- そのあたりの黒目川沿いにはテニスコートがある。(委員)
- 勾配がきつくて、のぼるのは大変だ。(委員)
- 自転車レーンについては、マロニエ通りなど都市計画道路なら、車道端を青く塗ることで確保できる可能性がある。(事務局)
- 自転車専用道路を計画しているところはあるのか。(委員)
- 河川沿いが多い。一般道では歩行者・自転車・自動車の取り合いとなる。(委員長)
- 新規に作るのは難しくても、先ず黒目川、落合川をきれいに整備し、つなぎをどうするかが課題だ。(委員)
- あと、六仙公園など、現在動いているところの活用が重要である。(委員長)
- 現状はネットワークしていなくても良いので、自転車道を計画することが重要だ。(委員)
- 歩行者ネットワークは、今あるルートを中心につないでいくこととし、細かいところは地域別構想で示す。また、実際に道路事業を行う際は、歩行者への配慮が重要となる。(委員長)
- ボトルネックは計画的に解消してほしい。(委員)
- ボトルネックの解消は単純ではなく、難しいかもしれない。整備して効果があるかどうか。車が流れるようになることで、危険になる場合もある。(委員長)

■その他

- 今回は、2月21日14時からで、防災関係をテーマとする。その次は、2月28日17時からで、低炭素関係をテーマとする。その次々回は、3月18日で、仕組みづくり関係をテーマとする。(事務局)

- 低炭素については、国土交通省の人が東京大学で講義をしてくれることになっており、2月上旬を予定している。都合がつけば参加いただきたい。(委員長)

以上